

# ロシア・ウクライナ戦争とアメリカの戦略

笹川平和財団上席研究員  
渡部恒雄

- \* 毒饅頭を食べたロシア
- \* 四つに割れたアメリカ
- \* バイデン政権のアジア政策
- \* 中国の台湾侵攻を牽制
- \* ウクライナ戦争の落としどころ
- \* 日本に必要なバランス外交
- \* 核は不拡散こそ最善の選択
- \* ウクライナ復興は心配ない
- \* 軍事力の比較は簡単には出来ない
- \* トランプもバイデンも消える



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

本日は渡部恒雄さんにおいでいただきました。毎年この頃おいでいただいているので、もうすっかり常連となりましたが、63年のお生まれで、東北大学の歯学部を卒業して歯科医になられた後、社会科学を勉強し直すということでアメリカに留学され、その後、いろいろな研究所を経て日本にお帰りになりました。今は米中関係、それから日本の外交問題についてはいちばん鋭い論客でいらっしやいます。今日はウクライナ戦争の中でのアメリカの戦略についてお話をただけるところでございます。それでは渡部さんよろしくお願いいたします。（拍手）

**毒饅頭を食べたロシア**

**渡部** ただいまご紹介いただいた渡部恒雄でございます。コロナになってからもここで一度話していたと記憶しておりますが、また呼んでいただいております。

アメリカの戦略なんていうのはそんなに頻繁に変わるものではないので、毎回ここで話してもアメリカの戦略は前と同じ話となることが多いのですけれども、今回は大分違っています。ウクライナの話もありますし、バイデン政権の戦略観は前回にもお話ししたと思いますが、中国をにらんでというのが基本ラインで、これはロシアがこうなっても変わりません。むしろロシアと中国がどうくつつくのか、くつつかない